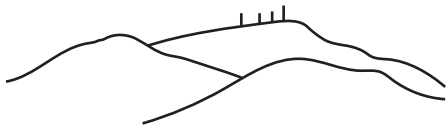


# Youth Manna

2021/2/22 - 2/28



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2021/2/22(月)

## 民数記 26:35-65

昨日に続いて12部族のうちの残りの6部族の人口調査が書かれています。第1回目のシナイの荒野での人口調査のときより、全体の人数は今回の人口調査の方が少し減っているだけでほとんど変わらない人数でした。しかし第1回目で登録されていた第1世代の人達は神様の約束を信じなかったため、カレブとヨシュア以外誰一人もいませんでした。神様が「彼らは必ず死ぬ」と言われた言葉が本当になったからでした。(65) 悲しく思える歴史があっても、神様の約束は第二の世代に引き継がれて長い時間がかかっても成就していくことも覚えていこう!!

●その世代に与えられる神様の期待と約束が自分達の世代にもあることを覚えよう!!

2021/2/23(火)

## 民数記 27 章

ツェロフハデの娘達の訴えに神様は憐れみを持って答え、訴えが正しいことを認めて、例え男性の跡取りがその氏族にいなくても相続地を与えるように言いました。

それに対して神様はモーセにはアロンと同じように約束の地には入ることが出来ないで死ぬことを厳しくもはっきりと伝えました。しかしモーセの一番の心配事である民が指導者を失うことのないようにという願いに、ヨシュアという次のリーダーがいることを伝えて、役割を引き継ぐことが出来るように神様はしてくれました。

時に優しく、時に厳しく見えることも、神様が一番良いことがされていることを受け取ろう!!

2021/2/24(水)

## 民数記 28:1-15

神の民の第二世代は、ついに約束の地の目前まで来た。彼らにとって約束の地での生活は、現実のものになりつつある。その彼らに対し、主は約束の地での生活の中心に、主への礼拝を置くように改めて語りかけている。主は、ご自身へのささげ物を、定められた時に確実に献げること、また、具体的に何を献げるべきかを命じられた。

私たちは、主イエスの十字架によってこれらを献げる必要がない。主のものとされている私たちは感謝と賛美のささげ物を献げる。主に献げる礼拝を生活の中心として歩めるよう祈ろう!

2021/2/25(木)

## 民数記 28:16-31

今日の箇所では、続けて、過越のいけにえと七週の祭りの規定について語られる。過越のいけにえについては9章で既に語られている。再び語られたのは、民の第二世代が約束の地に入ろうとしていたので、救いの原点である神さまを思い起こすためであった。

26-31では七週の祭り規定が命じられている。民が約束の地に入り穀物を収穫する時、民は自分の力で得たと錯覚しやすい。全ての収穫は主からのものであることを思い起こし、感謝するためである。

神様の前に私たちが忘れてはいけない恵みはなんだろう? 神様からの救いや恵みをしっかりと覚え、感謝しよう!!

包む日

2021/2/26(金)

## 民数記 29:1-19

▶七日目が安息日であるように、七ヶ月目は特別で、安息と罪の赦しの月だ。

### ①第七の月の一

この日は角笛が吹き鳴らされる日だ。全ての仕事をやめて、イスラエルの中心におられる主を覚える必要があった。

### ②第七の月の十日

この日は宥め(なだめ)の日だ。つまり人間の罪に対する神様の怒りをしずめ、関係の回復がなされる日だ。この日には、自らを低くする必要があった。

### ③第七の月の十五日

この日から7日間は仮庵(かりいお)の祭りが始まる。主に収穫の感謝と喜びを表すので収穫祭とも呼ばれる。

▶私たちも時に何かをやめて神様に心に向ける時間が必要だ。また、自らを低くして主に祈る時間が必要だ。そして、神様から与えられたものを感謝する時間が必要だ。

2021/2/27(土)

## 民数記 29:20-40

今日の箇所は仮庵の祭りの3日目から7日目までに献げるものの決まりと、8日目のきよめの集会の時に献げるささげ物についてが書かれているね。その中には普段から捧げていた「罪のきよめのささげ物」もあるんだ。

40年の荒野の旅の中でイスラエルの民がどんなに罪を犯して、神様に逆らい続けても、神様はあわれみによって罪を赦して人々を守ってくださった。

仮庵の祭りは秋の収穫を喜び感謝するための祭りだけど、それと同時にこの荒野の旅での罪とその赦しを覚える機会にもなったんだね。

今の時代も私たちが信仰という旅の中にいて、神様の恵み、自分の罪、その赦しを味わうことができる! 主の赦しを感謝して受け取ろう!

2021/2/28(日)

## 民数記 30 章

今日の箇所では、神様に誓って何かをささげたり、何かをやめたりするときのことを書いているよ。家庭の中で、男の人は自分の言ったことを必ず守るように、女の人は夫や父に従うようにと書かれているね。

なぜ家族の中で違いがあるんだろう? それは、家族の権威・責任者として立てられているのが夫や父親だからなんだ。神様は夫や父親の守りの中で信仰生活をするように言っているんだよ。僕たちも親の権威を尊重して従おうね!

ここでマタイ5章の「誓ってはいけない」というイエス様のことを思い出した人もいないか? 当時の律法学者は、神様の名前以外で誓ったら破っても大丈夫と他の人に教えていたんだ。守らなくても良い誓いをしてまで、誓わないように、とイエス様は教えられたんだよ。僕らも人生の大事な場面で誓うことがある。神様の前に誠実に生きるとはどういうことかをよく考えていこう!